"To acknowledge the duty that accompanies every right"
Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE Y'S MEN'S CLUB OF OSAKA-

CENTENNIAL

c/o YMCA INTERNATIONAL PROGRAM CENTER
Dojima Grand Bldg., 1-5-17
Dojima Kita-ku Osaka 530 JAPAN
PHONE (06)344-1717

May 1985 Ⅲ－11

THEME (1984～'85)

I. P. 「今こそ行動のとき」

R. D. 「限りなき熱情を奉仕に」

D. G. 「奉仕と誠をもって前進しよう」

P. 「創ろう新しい伝統を」

1984～1985 役員

会長	中村隆幸	書記	堀 利満
副会長	山田孝彦	〃	藤井保男
〃	長安敏夫	会計	柴田 健
直前会長	山中秀男	〃	浦野啓一
担当主事	田中穣二		

No temptation has seized you except what is common to man. And God is faithful; he will not let you be tempted beyond what you can bear. But when you are tempted, he will also provide a way out so that you can stand up under it.

あなたたちを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。神は誠実なかたです。あなたたちを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練といっしょに、それに耐えられるよう、逃れ道を備えていてくださるのです。

（コリントの信徒への手紙 Ⅰ 第10章13節）

◆「リーダース・トレーニング」強調月間〈日本区〉

5月例会プログラム

とき　5月15日（水）　18:30～20:30

ところ　大阪YMCA会館　10階集会室

司会　山村　幸明君

1.	開　会	中村会長
2.	ワイズソング	一　同
3.	聖句朗読	照屋　貞夫君
4.	ゲスト紹介	中村会長
5.	食前感謝「日々の糧」晩さん	一　同
6.	役員会報告	中村会長
7.	卓話「海外旅行裏話」	松添　壮君
8.	誕生日のお祝い	中村会長
9.	ニコニコアワー	
10.	役員会、委員会報告、YMCAニュース	
11.	閉　会	中村会長

▼ 例会当番（桂、谷川、照屋、藤井、安福、山村）

◆ 第2例会

とき　5月22日（水）　18:30～20:30

ところ　大阪YMCA会館　9階集会室

◆ 誕生日おめでとう

藤井　栄子メネット	5月　8日
川越さつきメネット	5月 16日
桂　晴子メネット	5月 17日
山田　道子メネット	5月 21日

4月例会出席者（在籍会員36名）

	第1例会	第2例会	Make UP	累　計
メン	23名	11名	なし	23名
出席率	63.89%			63.89%
メネット	10名			
コメット	3名			
ゲスト	2名			
ヴィジター	5名			
計	43名	11名		

◇ゲスト　ロナルド・D・ルース夫妻

◇ヴィジター　宍戸良美・秀子夫妻、佐藤千鶴子姉（奈良）
中島一郎、丹波兆治（大阪河内）

◇メネット　黒田、杉本、鈴木、田中、谷川、長安、森、山田、山中、山村　各メネット

◇コメット　山村明君、J・Partridge君、山中　圭さん

◆BFポイント　現金　86,000 P.T
切手　20,550 P.T　累計106,550 P.T

◆第１例会の記録

○当月はワイズメネットの月にふさわしく、例月とは一風変わった和やかで楽しいメネットナイトとなった。
受付から司会、議事運営すべてがメネットの手により進められ、併せて心のこもった手料理からデザートまで、メン一同いたれり、つくせりの待遇を受けた。

大活躍中の各メネット

○当日のメインはなんといってもロナルド・D・ルースご夫妻による卓話「我が家族」であった。話が詳しく紹介されはじめると、参会者全員が真剣に耳を傾け感動的な光景があちこちでみられた。
（お話の内容、要旨は別掲の通り）

仲良くお話しされるルースご夫妻

○出席者も例月になく43名と多く、議事も時間通りスムーズに運び、ニコニコまで35.300円集め“さすがはセンテニアル・メネット”とその実力をアリアリと見せつけられたメネットナイトであった。

心のこもった豪華料理のかずかず

◆第２例会の記録

1. 当月例会のプログラムの決定
2. 新年度よりの各委員会希望アンケートをとったが、最終決定は山田次期会長へ一任することになった。
3. 各大会への出席者は現在次の通り。
〔日本区大会〕
鈴木ご夫妻、田中ご夫妻、山田ご夫妻
中村会長、谷川君、藤井君、松本君
合計　10名
〔アジア大会〕
鈴木ご夫妻、谷川君　　合計　3名
4. ６月度は新旧役員交替式等のため、バッジ佩用正式服装とすることにした。
5. ＹＭＣＡ協力会員の継続登録について、まだ登録が終っていない人は早急に手続きをとること。

今月の聖句によせて

私たちの人生には、「もう駄目だ、全く行き詰ってしまってどうしようもない」と、絶望をさえ感じる苦しい出来事に出会うことが、屢々おこります。仕事のこと、対人関係、家族関係、金銭問題等々、本当に様々な悩みに出くわします。私も、これまでの人生で、死んでしまいたいとさえ考えた苦しい場に立たされた事も、幾度かありました。

この聖句は、その苦しみや、悩みを、神が私どもに与えられた試練と考えるべきこと、また、その試練が、どんなにその人にとって苦しい事であっても、人類を限りなく愛して下さっている神は必ず一筋の解決の道をどこかに備えて下さっていることを信じましょう。そしてただ漫然と、為すこともなく救いを待つのでなく、その人なりに最善と信ずる方向に向って努力を続けてゆくとき、道が開けてくると私は信じております。その道こそ、この聖句で云う逃れ道なのです。苦しくても頑張りましょう。　（黒田厳之）

四月例会、ロン・D・ルース夫妻による卓話

「我が家族」（要旨）

『私達の家族には、私達自身の子供のテッド（１３才）、それに養子にした四人の子供、トム（１７）、ティム（２１）、レイ（１９）、ビボ（２０）、以上五人の子供がいます。五人は、日本に来るまで、一緒に生活をしていました。この五人の他に、さらに二人の子供を短い期間めんどうをみていたことがあります。

みんないずれも、ベトナム系、カンボジア系、及び、アメリカ人との混血の子供達です。このようにたくさんの子供達を養子にしていますと、日本の人々は次のような反応をします。一つは、あなた達は、そんなにたくさんの子供を引取って、頭がおかしいのではないか。もう一つは、あなた達は、なんとすばらしい立派なことをしてあげていることか。この二通りのどちらかの反応をします。

しかし、私達夫妻は、子供達を哀れみの対象とは決して考えていません。私達にとっては、彼らは私達と同じ人間なのです。

私は、かねがね、アメレイシアン（AMERASIAN＝米国人を父とし、アジア系を母として生れた孤児）の問題に関心をもっていました。このアメレイシアンの子供達は、古くは第二次大戦後の日本、そして朝鮮半島、最近では、ベトナムでの問題です。この問題に対して、何が出来るかを、私は考えました。実際には、家族の一員として、彼らと一緒に生活をすることだ、と考えました。彼らと一緒に住むといっても、いろんな問題と、苦労がないわけではありません。しかし、それにともなう喜びも、またたくさんあります。

私の「家族」に対する考え方は、日本人一般の考え方とは、少し違っているかもしれません。日本では血縁を重視するようですが、私は家族のメムバーになりたい人々が、一緒にともに生活をすることが、「家族」と考えています。自分達のまわりで、一緒に生活をする人々が、本当の家族を創り上げてゆくものと考えます。その点、今は彼らと一緒に生活が出来ず残念です。日本のみなさんに、よくお話をする例に“スープ・ストーリイ”があります。

それは、五人の子供達がまだ小さく、ニュージャージーに住んでいた頃のことでした。アメリカ生れのテッドは、アメリカ式にスープを音をたてずに飲みますが、他の子供達は、大きな音をたてます。ごぞんじ、日本ではソバをたべる時、少し音をたてますが、ベトナムでは、それを料理してくれた人に、おいしい、という感謝の気持をこめて、大変大きな音をたてます。このような文化の違いについて、みんなで話をしました。そして、みんなでの結論は、アメリカのスープの時は、音をたてない。日本のソバなら、少し音をたてる。ベトナム料理の場合は、大きな音を出そう、という結論でした。このことから、人々が異ると文化が違うことも学びました。今の例でも、どの食べ方が、悪いというものではなく、それぞれの文化が異るからであり、相手の国の文化を尊重しよう、ということです。文化の違いを実際に経験して、これを教育に生かすことが出来ました。勿論、私達の毎日の生活に問題がないわけではありません。みんな大学に行く年令になり、学資の問題もあり、大変です。次は、私の家内に話をしてもらいましょう。

私（とし子夫人）は主人と結婚する時には、将来、子供を養子にしたい、ということは聞いていませんでした。主人は前から、アメレイシアンの問題に興味をもっていることを話してくれていました。主人の考えを、一応理解して、養子を受け入れることに同意はしましたが、いざトムが我が家に来るというその前日には、私は複雑な気持ちになりました。今までテッドを含め三人水入らずでの生活をして来たとこに、他人が明日から入ってくるのです。

トムは今まで愛情のない生活でしたから、これに対して、主人は１００％の愛情をもって答えてやっていました。主人は、自分の子供以上にトムに愛情を注いでいるようで、これを見て、主人の私達に対する注目が減るのではないかという、ジェラシイすら感じました。私を含め日本人は自分の身体でもって愛情を表現することが乏しい民族ですが、養子になった四人は、それを求めていました。過去に貧困の中で、愛情のない生活をして来ており、これを私達との生活で満たそうとしていることが、私にもわかって来ました。

家出をしたり、女親一人で育った子供には、家族の中での父親の存在がわかりません。それを主人のロンは愛情でもって示そうとしました。また、子供達五人の生活をみていて、兄弟の中で、どちらが兄か弟か、という関係も彼らには理解することが難しかったようです。当時、一番下のテッドのやることを、８才のトムや、ティムが一緒になって、下の子のやることをまねをします。あなたはお兄さんよ、といっても、それは彼らには理解出来ませんでした。

子供の「しつけ」（DISCIPLINE）も難しい問題でした。子供達各々の育って来た背景も違い、「しつけ」のやり方も、それぞれ違っていましたから、苦労しました。

アメリカは物質文明の国です。私達は決して金持ちでありませんでしたが、それでも、四人の子供にとっては恵まれた生活と映ったのでしょう。そこでは、「物」がすべての価値判断の基準となり、「物」を与えないと、愛情がない、と誤解されがちなことです。

もう一つ感じたことに、子供は子供なりに、するどい感受性（SESITIVITY）をもっている、ということです。子供達を通して、自分たちの育って来た背景、各国の文化を教えられました。それは、私達にとっても、とても楽しい機会でした。さらに感受性について、子供達が私達を全面的に信頼してくれていること。彼らには私達しかいないのだ、ということを彼らの行動から教えられました。

それは、ティムが１８才で、正式に私達の養子になった時のことです。それまでは、何回も私達の養子になると云ったかと思うと、あとになって、やめた、と云います。しかし、最後に電話で、この世の中で僕を知ってくれるのは、

（次ページへつゞく）

（前ページより）
あなたたち、ルース夫妻しかいないのだから、僕はルース家の一員になることを決めた、と云いました。
その時は、私達は大変うれしく思いました。

幸い、主人の子供達に対する接し方をみて来て、子供達を通して、夫妻としてのパートナーシップを感ずることが出来ました。今後も、これら五人の子供達を中心に、私達夫妻は、不充分ではありますが、一つの家族として、やってゆきたいと思っています。』

（テープ録音　村田、文責　谷川）

卓話「我が家族」を聞いて

山中　圭

田中さんがご紹介され、私は「子供を養子」として受け入れていると聞いた時“偉いな„と思いました。
けれども私はお話を聞き終わって反省しました。“偉い„と思うことによって“私にはできない偉いこと„として自分自身の世界から引き離していた。でも、それは間違いである。たとえ今まで私は養子などと関係なく、生きてきたとしても、たとえ今の私には何の手助けができないとしても、私は「理解」という方法でその世界と自分の世界とをつなげるべきである。

そして、お二人の話は「ＡＤＯＰＴ」の良い面と厳しい面を教えて下さった。それに家族は血のみではなく、見えないが、細いかもしれないが、一緒に住むことが家族である。

また、奥さんとご主人との違いにも興味を覚えました。“男性と女性との違いかな„とも考えましたが、やはりそれはアメリカと日本との文化の違いと考えます。ご主人はやはり「隣人愛」を説いたキリスト教。そして奥さまは日本人、日本人はそれほど強い宗教をもっておらず、日本独特の「神道」をとりあげても、御先祖を大切にする。つまり「血」を大切にする国だと思う。こういう環境の違いが「養子」の受けとり方の違いになったかと思います。けれども奥さまは、この違いを乗りこえて、立派に、悩み、考え、喜こびながら、すばらしい家庭を作っておられます。

お子様のことについても考えました。子供という立ち場は同じなので、それはすごく身近かに感じました。私には常に家族があった。家族がない一人ぼっちの世界は考えただけでも心がふるえます。いつも見守ってくれる家族がいなければ……。そして私は世界で一人ぼっちという恐しいほどの孤独感を耐えられる耐えられないとは関係なしに感じている愛は限りないものです。

心からあふれる愛を、たとえ直接的なくともいつかまわりまわって、さびしい子供に届くでしょう。けれども一方的ではいけません。子供達にも勇気をもってほしいです。世の中には愛がいっぱいあります。さがして下さい自分の愛を。

メネットナイトに出席して　山中ちあき

Writing in English, I can see that the Centennial Club is getting more and more international.

On Aprll 17th, the Centennial Club was a menette night. Aprill is a month when the menettes takes part in the meeting. And this meetine was held by the menette. the reception desk, the chairman, everthing was done by the menette.

We had a wonderful guest, Director Louse and his Japanese wife.

They spoke about his family of 4 children, 3 of them are adopted Vietnamese children. Quite an international family. Mrs. Louse told us about the problem that they had, culture shock and family problem. They got over those problems by getting more close together and by being a family.

I must especially write about the dinner. The menette did it in a Pot—Luck supper style. Each menette brought their nice homemade dish. The food was more than enough but the nice tasty homemade dish made it empty. We could not just keep the food on the dith, rather put it in our stomach. It was an "AT HOME" kind of pot luck supper. I hope a lot of luck will come in to the Centennial Pot.

「ポトラック例会の想い出」　谷川有美子

四月のセンテニアルクラブのポトラック例会は大成功でした。メネットナイトにふさわしくわがセンテニアルのメネットが腕をふるい大きな力を発揮しました。

ポトラック例会と言いますと10年も昔のことを想い出します。ロサンゼルスで主人と私が所属していたウェストチェスター・クラブの例会は毎月ほとんどポトラック例会でした。例会場のウエストチェスターＹＭＣＡには立派なキチンはありますが、大阪ＹＭＣＡ会館のようなレストランはありません。毎月二回の例会は、ＹＭＣＡのキチンを利用して料理を作ることよりも、メネットが各家庭より持ち寄りのポトラックが中心でした。

ポトラックの「いわれ」はいろいろあるようですが、私がきいている語源は、ポット（ＰＯＴ＝つぼ）から、どんなラック（ＬＵＣＫ＝幸運）が飛び出すか、と云う意味のようです。その日の例会（ツボ）から、どんな料理（幸運）が飛び出すか、例会に行ってみなければ分らない、その日のお楽しみ、といったわけです。

しかし、メネット全員がメイン・デイッシュ（主食）を持って来て、デザートがない、など片寄っても困ります。そのため、ある程度の調整をしていました。日本区にも、よく名の知られたモリー・ベーカー夫人（故人）がイニシアティヴをとり、例会の数日前に電話がかかって来ます。「今度はあなたにホットプレートの肉料理」「次はデザートの番」「あなたはサラダにして下さい」等々でした。ただし、ごぞんじ、アメリカ人の料理と申しますと、各家庭とも、オープン料理が中心で、おきまりコースが大半です。どのメネットが作ってきてもあまり変りばえがしませんでした。その点、わがセンテニアルは、先年の例会でもお分りの通り、それはそれはバラエティにとんだ豪華版でした。参加したメネット達もよその手作りを楽しみましたが、きっとメンを喜ばせたことと存じます。

でも、毎月はご勘弁の程を。

国際役員選挙の結果

昨年末行なわれた国際役員の選挙の結果が発表されました。今年七月からの次期国際会長は、インドのP・スクマラン氏、次期国際会計は、現国際会計のB・モレール氏が継続します。

インドから国際会長が出るのは、今回が始めてです。今回の選挙は投票率が発表されました。P・スクラマンIPEを当選させたインド・エリアは、さすが100%の投票参加率です。日本を含めたアジアは62%で、これはヨーロッパ・エリアの68%に次ぐ成績です。一番投票参加率の悪かったのはアメリカ・エリアの25%です。ワイズの発祥の地、アメリカ・エリアの再生が求められている今日ですが、アメリカのワイズメンの国際に対する関心の低さが問題のようです。

アジア・エリアのICMは、今村、谷川の両名及び台湾のH・ラン氏に次いで、下記の三名が決まりました。

KYU HYUK CHO (韓国)
DAL HO HWANG (〃)
CHIA-LUNS KUNG (香港)

以上、アジアからの六名は、今年七月、ハワイで開らかれる国際議会(ICM)に参加します。このICMの前に、アメリカ・エリア大会が、7月17日から四日間、ハワイのコナで開らかれます。

世界一長い橋？

村田貞夫

はて？、と普通ならギネスブックを調べるところだが、「大平洋にかける橋」と云えば、お気づきの通り、新渡戸稲造のことなのである。

若き志しを見事に果し、新五阡円札には世界地図の図案をあしらってその功績を讃えられている。

★メネット強調月間高槻Y's のメインは、大阪市立大学教授佐藤全弘先生による「新渡戸稲造という人」であった。北海道出身の私は、北方の荒野に種をまかれたクラークの思想的苗床から育った多くの偉大な人物の話をことあるごとに聞かされて成人した。その一人について、碩学なる先生より直接お話を聞き得たことは誠に有意義な時間であった。

★講演の内容は、全てテープに集録したのでご希望の方にはお貸し申し上げるが、出来れば佐藤先生の労作「新渡戸稲造ー生涯と思想」(キリスト教図書出版社発行)を読まれゝば。数少ないこの類いのもので圧巻である。是非共ご一読をおすゝめいたしたい。

★講演の中で特に感銘を受けた点を若干記す。

1.彼は生粋のクリスチャン。しかもクエーカーであった。
2.彼は最初と最後に偶然かどうか、買った本は英語の聖書であった。
3.彼は非常に多くの人から好かれ慕われた人柄。後年はベルグソンはじめ、外国人の人的交流も深まっていったほどだった。
4.彼ほど陰徳を多くなした人も少ない。
5.札幌農学校をやめる理由が、働きすぎによる病気のためだが、もし倒れなかっら間違いなく北大総長になったろう。不幸に倒れたけれども、アメリカで療養中、他の2冊に加え、有名な「武士道」を書いたことが以後の生涯を決定した。神の摂理の不思議さがこゝにある。
6.彼が一高校長だった7年間に、最も多くの人物が輩出したといわれる。

……という様なことである。

★講演後の私の質問「何故わずか1年たらずしか在籍しなかったクラークの末裔から、日本の精神界をめるがすような大人物の奔流が生じていったのか」に対して、佐藤先生は「クラークは決して一流の人物ではなかったが、全精神をこめて、一所懸命に働き、またその時の教え子たちの受皿が良かったのだ」とのお答えでした。昨今の教育問題に、何かしら考えさせられる気がした。

★折角ですから、最後に、上述佐藤先生の著書P 454 祈りについての一節をそっくり引用して筆を置きます。その前に一言提言を許されるならば、各地のY's がいろいろな機会になされるゲストスピーカーの講演録を時々まとめては、日本区から、出版してみてはと思うのですが、新参者で、本好きのたわごととお聞きすて下さい。

「さて心の平和を維持するに最も良い方法は祈祷である。祈祷は英語でprayerと云う、私が少年の時読んだ或る英語の本の中に、prayerとは四個のActs(行為)であると教へられてあった。Acst なる字はAとCとTとSとの四字から出来て居る於Aは英語のAdoration(讃美)の頭字、Cは同じくConfession(懺悔)の頭字、Tは同じくThanksgiving(感謝)の頭字、又Sは同じくSupplication(祈願)の頭字である。するとPrayer(祈祷)とは讃美、懺悔、感謝、祈願の四個の行為を含んで居る訳となる。そこで神に祈祷を捧ぐる時には、神を讃美し、神に懺悔し、神の恩恵を感謝すると共に、己の欲するものを与へられん事を神に祈願することも必要となる。然し祈願は祈祷の全部ではない。僅にその一部である。祈願が祈祷の全部であると思うは大なる心得違いである。」(全集10巻184頁)

まず祈祷を四つの行為であると述べてあるのに注意をひかれます。祈りはただ言葉でのことでなく、実行、活動であるとの博士の信念が、ここにもうかがえます。内村鑑三も「祈りの人とは祈祷のみする人でなく、祈って働く人なり」と言っていますが、博士こそ、何事をなすにも祈ってなす人でありました。博士は黙想を重んじ、沈思の時をとうとびました。それも単に内省のためではなく、自己を忘れ、自己を捧げて活動に就くためであったのです。以上

YMCAニュース

▽ワールドキャンプ　キャンパー募集

北米YMCAはキャンプ創立100年を記念し、世界中から、YMCAの青少年を招いて国際キャンプを7月21日～8月21日(32日間)開催することになり目下キャンパーを募集中です。年令は15才～18才の男女となっています。皆さんのご子弟もご参加になりませんか。

▽ジヤヤスリア(スリランカクリスチャン女流画家)個展

標記の個展が5月18月～5月25日に当奉仕センターで開かれます。是非ご覧下さい。なお、同女史を囲む会が5月18日、午後4時からあります。

▽外国語熱花ざかり

先月号のブルテインでお知らせしました当センターの外国人のための日本語コースは100名を上廻る学生が参加し新学期がスタートしました。それに従来からの韓国語コース、新設の中国語、マレーシア、インドネシア語、実用タイ語、シンハラ語(スリランカ)に約100名、英語コースに50名合計250名の学生が入れ替り外国語を勉強していることになります。これにより語学センターとしての特色を大いに育てて行きたいと思います。

▽国際機関をめざす人のためのトレーニング・コース

当センターではユニセフなどの国際諸機関や国際的な民間機関で働くことを希望する学生や青年のための基礎訓練コースを開設します。問合せは奉仕センターまで。